

通信



e i s e i

地域と患者さまに、永生会の今をお届けする



CONTENTS

- MESSAGE 医療法人社団永生会理事長 安藤高朗からのメッセージ ●表紙について
- えいせいNEWS ●お知らせ
- REPORT
- 知って得するお話 ●医療と介護の今後
- 交流TOPIC ●あのかたこのかた ●今後の行事予定



理事長

あんどう たかお

安藤高朗からのメッセージ

地域とともに災害に強い町づくりを目指す

今般の熊本県を中心に起こった地震では、多数の被害が発生しました。震災でお亡くなりになった方々に、改めて深く哀悼の意を表します。また、今なお避難生活を余儀なくされている方々の心中をお察しいたします。永生会は、震災後いち早く現地へ多くの職員を派遣し医療活動に従事させていただきましたが、引き続き被災地の復興に微力ながらご支援させていただきます所存です。

さて、今号では被災地への医療派遣活動の報告や防災対策などを中心に特集を組ませていただきました。災害時には警察や消防、役所など多くの行政機関が協力して活動しますが、普段地域のために行政が行っている防災や地域への取り組みにはどのようなものがあるのでしょうか。今回は八王子消防署による地域への防災活動についてお話しさせていただきます。

消防署による地域への防災活動は多岐にわたります。町内会やマンション管理組合の防災訓練の指導、消火器を使った初期消火訓練、身体防護の指導、倒壊したタンス等の下敷きになった場合の救出や救護の訓練などがあります。規模の大きな訓練には、起震車を派遣して大地震のシミュレーションを行い、災害時にどのような行動をとるべきか身をもって体験してもらいます。また、幼稚園や保育園、学校等へ隊員が出張し、子供たちや教職員に向けて防災教室や救急講習の実施、避難訓練への立ち合いなども行います。

ひとことに防災と言っても地域によって活動内容は違ってきます。ここ八王子ですと高尾山などの登山客に対する救助や山火事対策などにも力を入れています。また、八王子市は災害に強い町づくりを目指しており、都内でも防災意識が高

い地域です。市内には山岳から住宅まで様々な環境があるため講習内容の幅も広く、救命講習に関しては年間約25,000人が参加しているそうです。

このような講習を通じて、それぞれの地域で指導的な役割ができる人が増えていくと、さらに災害や防災に対して意識が強くなると思います。訓練や講習は、自分事として意識しないとなかなか興味も知識も得られません。小さいころから防災意識を持ってもらうために消防少年団 (boys and girls fire club, 略称B.F.C) の活動や、消防署内を開放しての防火・防災フェスタなど様々な取り組みがありますので、ぜひ一度参加いただき、防災意識を持つきっかけにさせていただきたいです。

全国各地でも地震は頻発しており、首都直下型の巨大地震もいつ起きてもお不思議ではないと言われています。引き続き、地域の皆様には災害対策や防災意識を心がけていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

医療法人社団永生会理事長 安藤高朗

八王子消防署

お問い合わせ

TEL.042-625-0119

<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-hatiouji/>Blog安藤たかおの見聞録 <http://ameblo.jp/ando-takao/><https://www.facebook.com/takao.ando.395>

表紙について

熊本県地震への災害医療支援活動

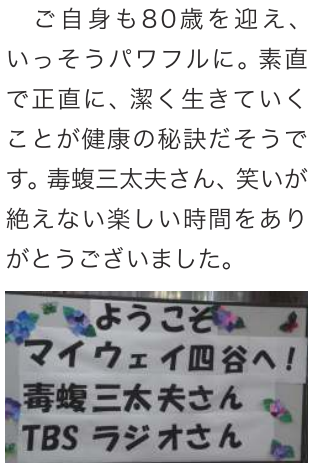
熊本県を中心に発生した地震において、当法人からも多くの職員が現地に派遣され活動してまいりました。今号の広報誌では災害医療派遣の報告をはじめ、災害時の役立つ情報なども多く掲載しておりますので、災害、防災の参考にしていただければ幸いです。

まむちゃんが今度はマイウェイ四谷にやってきました!



5月26日、毒蝮三太夫さんがTBSラジオの生収録放送で介護老人保健施設マイウェイ四谷に来てくれました。さわやかな青いスーツに下駄の音をカラコロンと響かせての登場、施設のご利用者様とスタッフ一同「まむちゃん!」の声援でお出迎え。四谷にまつわる話題から、いきなりご利用者様とのアドリブ掛け合いがはじまりました。毒蝮の名付け親である立川談志にかけた利用者様の切り替えしには、「おい、おれ、負けたよ〜!」とさすがのまむちゃんも苦笑い。

ご自身も80歳を迎え、いっそうパワフルに。素直で正直に、潔く生きていくことが健康の秘訣だそうです。毒蝮三太夫さん、笑いが絶えない楽しい時間をありがとうございました。



永生病院 看護の日



5月21日、永生病院では毎年恒例のイベント「看護の日」が開催されました。

近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日である5月に、患者様やご家族様に限らず、地域の皆様楽しんでいただけるアクティビティを準備しており、患者様やご家族様だけでなく職員同士にとってもふれあいの多いイベントです。

冒頭のちびっこナースの可愛らしい笑顔にはじまり、アロママッサージ、フラワーアレンジメント体験、カラフルなおせんべい作りやに人だかりのバザーエリア、疲れたときには喫茶エリアで甘いものをご用意。可愛らしい和菓子はイベント終了前に売り切れとなる人気でした。また、専門の看護師による生活習慣病や認知症について簡易チェックや相談できるブースも設けており、地域のローカル誌の記者からも取材を受けました。



お知らせ

介護老人保健施設イマジンが一部改装されました

以前から工事を行っておりました介護老人保健施設イマジンの改装が一部完了しました。天井の高い1Fロビーを改装して開放感のあるデイケアスペースに様変わりしています。これまで2Fがデイケアスペースであったため、エレベーターでの移動が利用者様、職員にとっても負担でしたが、今回の改装で解消されました。事務所も一新されており、今後も利用しやすい空間にするために部分的な改装や配置変更を行う予定です。

引き続き、永生病院の改装も含めご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



REPORT

熊本県地震被災地への医療支援チーム派遣のご報告

熊本県を中心に発生した地震において、全国の私立病院が独自に組織した全日本病院協会災害時医療支援活動班 (AMAT)、日本医師会により組織される災害医療チーム (JMAT) の医療支援チーム並びに東京都の医療救護班として、永生会から本部チームを含む7チームが熊本県に派遣されました。

医療派遣チームは医師、看護師、業務調整員 (救急救命士、リハビリ職員、事務職員) らの4名1チームで構成されており、4月16日夜の移動から活動最終日の5月25日まで、避難所や被災した医療・介護施設への巡回、支援先病院での当直など、各チームが交代で医療支援等を行いました。当法人の安藤理事長も本部チームと同行し、物資の提供や各地の情報収集に当たりました。

また、新聞や報道においても派遣チームの支援活動が取り上げられ、患者様から激励のお電話も頂戴しました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

本部チーム

安藤理事長率いる本部チームは、他の医療機関の協力のもと災害拠点として場を提供いただき、物資の補給に加え、23カ所の病院から被災状況をヒアリング。収集した情報を、JMAT・DMAT・AMATの合同ミーティング内で各方面に情報をフィードバックし共有と展開を行いました。



南多摩病院 派遣チーム



東京都に登録している災害派遣ナースの職員も含め、3チームが熊本県宇城市を中心に活動しました。現場ではニーズに合った医療行為や物資、人員の配置が行なわれておらず、情報伝達や災害用システムにおいては災害発生後うまく機能していない例が多く見受けられました。普段から訓練を行うなど、日々の備えは重要です。



病院救急車

病院救急車を活用し、エコノミークラス症候群をはじめ3例の重症患者様を避難所等から高次医療機関へ搬送しました。八王子市医師会の在宅療養救急搬送支援事業として南多摩病院が運用しているこの病院救急車は、大規模災害発生時にも大きな力を発揮することが確認されました。これは普段から活用されていたからこそ、災害現場においても役割を果たすことができたと言えます。



永生病院 派遣チーム



永生病院からも3チーム派遣隊が現地に向かいました。熊本市内を中心に医療救護所の立ち上げや各施設の巡回、夜間外来や病棟夜勤の支援、当直、緊急入院患者対応などを行いました。現場職員の疲労も顕著に見られ、職員もまた被災者であるため負担の軽減にはお互い努める必要があります。

また、時間経過とともに緊急性の高い医療局面から介護需要の高い環境に変化していくため、医療から介護へつなぐ体制づくりも重要であることがわかりました。



今回の災害医療派遣は、職員にとっても専門外の知識や経験を得る貴重な体験となりました。

今回派遣されたのは7チームのみですが、災害現場で少しでも役に立ちたいという想いは現地に向かえなかった職員も同じです。今後また起こりうる災害に備え、永生会では今回の災害派遣で得たものを生かし、八王子地域における災害への対応力強化に努めてまいります。

知

って得するお話

南多摩病院 危機管理室

一人ひとりの命を守る災害対策

緊急医療救護所について

東日本大震災以降、日本国内のいたる所で大きな地震が頻発していますが私たちが住んでいる東京でも約30年以内に70%の確率でマグニチュード7クラスの大きな地震が発生すると言われています。

大規模な災害が発生すると多数の負傷者が出るおそれがあり、軽症、重症を問わず多くの傷病者の方が病院に殺到し必要な方に適切な医療を提供できなくなるおそれがあります。

八王子市はそのような混乱の中で一人でも多くの方の命を救うために災害医療の最前線基地として市内医療機関を中心とした15の機関と緊急医療救護所設置についての災害協定を結んでおり、その中には永生会の永生病院と南多摩病院が含まれています。

緊急医療救護所はそれぞれの協定を結んでいる病院などの駐車場等に設置され、八王子医師会から派遣された医師をはじめとした医療スタッフが発災から概ね3日間程常駐し応急処置は勿論のこと、緊急性が高い人とそうでない人をグループ分けし治療や高次医療機関への搬送に順位をつけたりします。

15箇所全て同時に開設されるとは限りませんが開設されていればどの救護所でも治療などを受けられることになります。

永生病院と南多摩病院では定期的に行う防災訓練に合わせ、緊急医療救護所との連携や傷病者の受け入れするための訓練を病院全体の取り組みとして今後は取り入れていくことにしています。



医

療と介護の今後

永生総合研究所

災害医療と規制改革

今年の4月14日夜、続いて16日未明、熊本地方は最大震度7という大地震に襲われました。今般の震災で亡くなられた方々に深く哀悼の意を表すとともに、被災された方々とそのご家族、関係の方々へ心よりお見舞い申し上げます。

被災の状況や支援活動については他の記事をご覧ください、永生総合研究所からは今次の災害対応を踏まえ、規制緩和についてお話しさせていただきます。

当法人理事長の安藤も災害救助医療チームの一員として熊本入りし、20数か所の医療機関を回り、理事長、院長、事務長の方々と話をしてきましたが、診療報酬上での様々な施設要件、人員配置基準、患者様の病態に関する要件等が災害医療救助の障害となることが話題に挙がりました。具体的には、被災した患者様や転院の患者様を受け入れると、①平均在院日数、②重症度、医療・看護必要度、③在宅復帰率、医療区分2・3の患者割合の要件等の基準が満たせなくなってしまうというものでした。これらの意見は、急性期については主に全日本病院協会、慢性期については主に日本慢性期医療協会を通じて厚生労働省に進言され、ほとんどの規制緩和が行われています。このこと自体はとも良いことと思います。

ルール・基準を作る際、平時においては医療や介護の様々な議論を重ねるたびに「医療の質の向上」、「安全対策」が強調され、結果として従事者のより厚い配置等が求められますが、災害時には「仕方がない、あるものでやらなければ!」というマインドが対応力の要となっています。限られた資源の活用と少数精鋭主義という発想の転換が災害時には必要です。

これからの我が国の超高齢社会はまさに災害にも匹敵する緊急事態と言えます。一定の質の確保は前提となりますが、「何でもありの総力戦」で乗り越えていかなければならないと考えます。

院内交流 第21回 永生会学術集会



5月14日に永生会学術集会が開催されました。これは職員の学術活動の支援と各活動に関する情報交換などを目的に開催されています。同じ法人内であっても、職種や施設が違えば交流は限られます。発表やディスカッション

を通して、自身の専門外の業務内容や気づきなど、職員同士の顔の見える関係強化にもつながっています。発表は口述発表20題、ポスター発表26題、外部講師を招いての講演など例年より演題数も参加人数も増えています。参加職種も広がってきていますので、今後は法人内だけではなく地域とのつながりにも発展していくことに期待しています。

あのかた
このかた

気になる職員にスポットを当ててご紹介するこのコーナー。

今号では熊本災害医療派遣でも現地に赴いた南多摩病院の災害対策委員長 救急科専門医、朽方医師をご紹介します。

くつかた のりよし
南多摩病院 血管外科部長 朽方 規喜



災害から身を守るのは、ひとりひとりの日々の意識

●医療の世界に進んだきっかけはなんですか？

医者を目指そうと意識したのは高校生のときでしたね。医学用語の多いドイツ語を専攻したのがきっかけで留学を望むようになりました。ここから医者としての道を本格的に考えるようになったと思います。

●救急や災害医療に携わるようになったきっかけは？

最初は外科、血管外科の分野に進みました。海外留学や大学講師などを経て開業医の父の後を継ごうと考えていた頃に、私の先輩だった益子先生（現 南多摩病院長）からご縁をいただき、救急医療に携わるようになりました。災害医療の分野も含め、救急で学ばせてもらった多くのことを生かしたいと考え南多摩病院で日々研鑽しています。

●熊本への災害医療派遣を通じて感じたこと

コミュニケーション、情報共有の大切さを痛感しました。私達が心がけたのは他の派遣チームや行政の人間を交えての小まめなミーティングです。どんなに技術が進んでも人同士のコミュニケーションに勝る情報伝達は無いと考えています。

●院内での災害医療への取り組みはありますか？

今すぐ診療が必要な患者様を早期に発見し、診療の優先順位を決定するトリアージポストの導入を考えています。治療の緊急性を見極めることで、患者様に必要な診療を迅速に提供することができます。スタッフにとっても院内の状況や機能が把握できる仕組みですので、今後注力したいと考えております。

●みなさまへのメッセージ

災害は忘れたころではなく、忘れないうちにやってきます。地域の皆様には普段から自分事であると意識をして、地域で行われている防災訓練などに積極的に参加していただきたいです。災害時にも対応できる永生会のスタッフとともに、南多摩医療圏の安心・安全な街づくりのために努力して参ります。

Profile

●専門：外科、胸部心臓血管外科、救急医学

●得意分野：血管外科、外傷外科、災害医療、心肺蘇生学、スポーツ医学など ●出身大学：日本医科大学大学院

●資格：心臓血管外科専門医・修練指導者、日本外科学会指導医・専門医、日本救急医学会 救急科専門医、日本麻酔科学会認定医、日本DMAT隊員（県統括）、日本体育協会スポーツドクター

●主な経歴：昭和62年 日本医科大学附属病院 外科学第二教室、平成2年 榎原記念病院心臓外科、平成10年 ドイツ クリニック エスリンゲン血管外科
平成13年 日本医科大学心臓血管外科講師、平成17年 日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター、平成22年 佐賀大学医学部非常災害医療学講座教授

今後の行事予定

八王子市がん検診のご案内 (平成28年度)

八王子市による下記の検診を、永生会の各施設で受診いただけます。

永生クリニック、クリニック0(ゼロ)では土曜日の受診も受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。

医療機関名	電話番号	特	肺	大	乳	子	肝
南多摩病院	042-663-0111	● ド	●	●	●	●	●
永生クリニック	042-661-7780	●	●	●	—	—	●
クリニック0(ゼロ)	042-666-1556	●	●	●	—	—	●

特●…健康診査(特定・後期高齢者・一般・18-39歳)
 ド…人間ドック割引
 肺●…肺がん検診
 大●…大腸がん検診
 乳●…乳がん検診(マンモグラフィ+視触診)
 子●…子宮頸がん検診
 肝●…肝炎ウイルス検診

■ 予約期間: 平成28年5月23日(月曜日)～平成29年1月30日(月曜日)

■ 受診期間: 平成28年6月1日(水曜日)～平成29年1月31日(火曜日)

検診によっては八王子市から郵送される「受診券」が必要です。

詳しくは、医療保険部成人健診課にお問い合わせいただくか、八王子市ホームページがん検診のご案内をご覧ください。

お問い合わせ

医療保険部成人健診課(成人健診・がん検診担当) TEL.042-620-7428

http://www.city.hachioji.tokyo.jp/hoken_iryu/7303/index.html

医療法人社団 永生会

理念: 人々に質の高い、安心な、やすらぎにあふれた、リハビリ・マインドのあるヘルスケアサービスを提供します。

永生病院	〒193-0942	東京都八王子市栲田町583-15	TEL.042-661-4108
南多摩病院	〒193-0832	東京都八王子市散田町3-10-1	TEL.042-663-0111
永生クリニック	〒193-0942	東京都八王子市栲田町588-17	TEL.042-661-7780
クリニック0(ゼロ)	〒193-0943	東京都八王子市寺田町490	TEL.042-666-1556

●介護老人保健施設

イマジ	〒193-0942	東京都八王子市栲田町583-15	TEL.042-662-7000
マイウェイ四谷	〒160-0015	東京都新宿区大塚町1-3	TEL.03-3355-0428
オネスティ南町田	〒194-0004	東京都町田市鶴間1654-1	TEL.042-788-0373

●グループホーム

寿限無	〒193-0942	東京都八王子市栲田町590-4	TEL.042-662-6500
-----	-----------	-----------------	------------------

●通所リハビリテーション

スマイル永生	〒193-0942	東京都八王子市栲田町588-17	TEL.042-661-4175
イマジ	〒193-0942	東京都八王子市栲田町583-15	TEL.042-662-7000
クリニック0(ゼロ)	〒193-0943	東京都八王子市寺田町490	TEL.042-673-5720

●訪問看護ステーション

めだか	〒193-0942	東京都八王子市栲田町513-13-1F	TEL.042-661-5080
とんぼ	〒193-0914	東京都八王子市片倉町440-2	TEL.042-632-6351
ひばり	〒193-0835	東京都八王子市千人町2-13-8-1F	TEL.042-649-6917
いるか	〒193-0364	東京都八王子市南大沢1-18-11-A103	TEL.042-659-2213
口笛	〒194-0004	東京都町田市鶴間1654-1	TEL.042-706-8810

●居宅介護支援事業所

ケアプランセンター えいせい	〒193-0942	東京都八王子市栲田町583-15	TEL.042-662-7020
居宅介護支援事業所 片倉	〒193-0914	東京都八王子市片倉町440-2	TEL.042-632-6335
ケアプランセンター びあの	〒194-0004	東京都町田市鶴間1654-1	TEL.042-706-8808

●八王子市高齢者あんしん相談センター

八王子市高齢者あんしん相談センター 片倉	〒193-0914	東京都八王子市片倉町440-2	TEL.042-632-6331
八王子市高齢者あんしん相談センター 寺田	〒193-0943	東京都八王子市寺田町137-4	TEL.042-673-6425

医療法人社団 明生会 セントラル病院

本院	〒150-0046	東京都渋谷区松濤2-18-1	TEL.03-3467-5131
分院	〒150-0045	東京都渋谷区神泉町25-1	TEL.03-3465-5131
松濤	〒150-0046	東京都渋谷区松濤2-11-12	TEL.03-3485-5131

●永生会協力会社

在宅総合支援サービス 十字架ケアステーション	〒193-0833	東京都八王子市めじろ台1-9-1	TEL.0120-537-0800
------------------------	-----------	------------------	-------------------

シャトルバス運行中

永生病院 ▶ めじろ台駅 ▶ 南多摩病院 ▶ 西八王子駅 ▶ めじろ台駅 ▶ 永生病院

さまざまな永生会の機能を患者様・ご家族様・ご利用者様に余すことなく提供できればと考え、コールセンターを開設しています。



永生会コールセンター



0120-001-083

<http://eisei.or.jp/>



介護老人保健施設 マイウェイ四谷